菊池短歌会　7月詠草

しとど降る雨音聞きつつ雨もらぬ部屋にこもりて
短歌をひもとく　氏岡百枝
朝まだき狭庭にましろ梔子の風がただよふ　ひと
いろの香に　梅田昭子
仕事終え昼餉もやふやくすませたりさてと午睡の
枕取り出す　古賀勝士
農事みな今は後姿老いの身に帳のごとき軒のさみ
だれ　竹野美智代
鞍岳の青嶺を仰ぎ行くバスの客の会話の太き方言
中川愛子
かすみ草ほど華やぎ無けれ梅雨の野に吹き曝らさ
るる花姫女菀　中原ちえ子
初夏の嬉々たる蔓の影にさへひ返り咲きゐる藤の
むらさき　怒留湯健蓉
うち叩く梅雨降りさむし早苗田にはや田蛙の声杳
かなり　村上咲江
駆けて来し曾孫両掌に抱きしむる夏空の様な爽か
な笑顔　山下菊代
リード持つ義姉の笑顔と犬「きゆう」の夕映の中
走るが見ゆる　余語やす子

万句の里俳句会　7月句会

校庭を囲ひ込んだる蝉時雨　光本とよいち
みちのくの旅の一夜は鮎も焼く　小山照子
踏み込んで思案に余る草の丈　田中美智
白昼の大道よぎる黒揚羽　吉井綾子
一雨の過りて合歓いろ目覚む　丸山美代子
南海で散りし弟星今宵　打出　貞
風鈴のかすかに風を寄せてをり　野中公枝
奔放に生きる倖せ凌霄花　隈部輝子
包丁の音も軽やか胡瓜もみ　田島房子
梅雨晴間心の襞も干しにけり　加藤妙子
水中に潜る術なく水馬　北村妙子
道ありて道なきごとし男梅雨　平山邦子

肥後狂句桜会　例会入選句集より

ひっかけて　指の振るいの止まらした　須藤新生
右も左も　舟漕ぎよらす終電車　狩野本六
右も左も　年寄りだけの隣組　藤野清子
甘過ぎる　こっじゃいーんまどまぐるる　光堀善教
甘過ぎる　一人しきゃもたんけんたい　髙倉新米
甘過ぎる　上戸には鳥肌の立つ　小川繁美
はい只今　出前はさっき出たて言う　窪田明徳
わさもん好き　すぐ通販にとびつかす　田尻浩風
わさもん好き　破れジーパンはいとらす　田中孝幸
耐えきらん　記録更新する気温　高木房惠
たぎっとる　夢はやっぱり甲子園　上村〇子
たぎっとる　応援しよる野球ファン　田中レイ子

泗水短歌会　7月詠草

沖縄戦終結の日は母の忌よかくも老い来て梅雨の
風受く　増田久美子
野の道の道草楽し昼顔の待ち受け画面にゆらゆら
揺れる　吉安永子
何となく体調くずれ医者通ひ締め切りせまるも一
首も成らず　福原美智子
おどり海老喰まんとしつつたじろぎぬ潮の香満つ
る旅の昼餉に　矢野悦子
剪定の技は無知なり梅五本風と光を招きつつ切る
高藤タツノ
一花づつ夏を告げたる凌霄花落花の飾る梅雨の雨
道　長尾はるみ

早苗田に梅雨の晴れ間の午後の陽が照りて田の水
眩しく光る　中山定子
梅雨明けか今朝は晴天空澄めり病窓開ければ外気
のうまし　平嶋きくえ
広き田に水たっぷりと張られゐて綿雲ひとつゆっ
くり渡る　大島きと

せせらぎ俳句会　7月例会

黄泉の客に不義理重ねて盆終る　藤本邦浩
群青の薩摩切子に冷やし酒　五丁義昭
雲よ散れ日食を待つ梅雨の空　寺本和子
毎日を留守居木槿の花終る　村山数恵
花五十月下美人の香を放ち　藤本アツ子
バスの席譲ってくれし浴衣の娘　服部静子
雷一閃そして忽ち虎が雨　内村泊虹
下校道目の前飛び交う群とんぼ　（高一）渡辺大寿
腕の蚊の既にふくれた腹赤く　（高一）渡辺一史

肥後狂句水笑会　7月例会

握り飯　戸棚に置いて出て行かす　柏原乗仏
握り飯　今はラップで丸めらす　御手洗三代
暑さしのぎ　裸になっておごられた　平井紅彩
本日休診　また不養生さしたろか　井手水光
てれーっと　乗らにゃんバスに乗っとらん　吉岡三水
温泉だらけ　わが家の風呂は遊うどる　続　義昭
温泉だらけ　やみつきになる梯子風呂　神尾迫水
暑さしのぎ　婆はうちわが丁度よか　中島五女
てれーっと　しとるごつして手綱引く　宮上美由
てれーっと　鶴屋ん前に立っとらす　山隈好茶

七城短歌会　7月詠草

うす紅の花咲くねむの木のかたえ足湯にひたり安
らぎ増しくる　緒方寛子
くちなしの咲き初む香りに酔い立ちて言葉かけつ
つ一枝手折る　吉間充子
「スーツ、セーター、シューズ」前に並べて思案
するころころ変る八十路の決断　森　道子
餌はこぶ燕次つぎ目まぐるし車庫にいくつか雛
かえりゐて　岩津涼子
常常を常識の中に生きる身も忍の一字が背なに重
たし　村上幾雄
吾よりも夢を持ちたる蟻なるか連なり励む炎天の
下　木下陽子
封筒の文字少し濡れ梅雨の午後逝きたる夫に便り
の届く　岩崎照代
畑草を取る我見捨てる麦藁帽子風を頼りて小踊り
逃げゆく　佐々重弘
蒸しタオル両手で温きを確かめて拭く病む夫の顔
が細りし　下川つぎ
落ち葉掃く欝を戒め精込める夏は木陰に癒さるる
なり　斉藤芳子

旭志文芸俳句会　7月詠草

粢拾う子等嬉々として梅雨晴間　東　芳子
夜更け鳴る振子時計や遠蛙　芹川蓉子
扇ぎつつ親子読書の団扇かな　中尾ヨシコ
水無月の大青空やとび一羽　出田みとり
菊挿すや我老いたれば休みつつ　芹川のり子
入梅と共に田植えの始まりぬ　郷　ミヤ子
苔むししキリシタン墓地ほととぎす　水谷ミネ